



柿の実

令和元年度 11月号

学園だより

令和元年11月7日 発行

中央区立宇佐美学園

静岡県伊東市宇佐美545番地

輝きを放つ

園長 小久保 秀雄

秋が深まり、宇佐美学園の朝夕も冷え込みが感じられるようになりました。

9月、10月の2ヶ月間は、台風や暴風雨により各地で大きな爪痕を残したニュースが連日報道され、保護者の皆様には学園での様子が気になりだしたことと思います。学園では、子どもたちが安心・安全に過ごせるようにと、3階に避難をしたり、教職員が子どもたちと一緒に部屋で寝起きをしたり、食堂の調理師が寝泊まりをして朝食に対応するなど、学校部、寮部、食堂部が一体となって対応してきました。そんな中、子どもたちは慌てることなく、みんなで共に落ち着いて行動することができました。今後も、こうした状況には、学園全体で対策を講じ、対応して参りますので、よろしく願いいたします。

さて、10月19日（土）に行われた運動会にはたくさんの方々にご参観いただき、ありがとうございました。当日夜明けまでのあいにくの雨のため、体育館での運動会になりましたが、子どもたちは、「大事なのは場所じゃない。どんな演技・表現をするかだ。」

ということを中心に置き、全力投球でがんばりました。

特に子どもたちが力を入れたのは、これまで数年間続いていた「学園ソーラン」から、新たな挑戦となった「エイサー」の演技。息の合ったかけ声、太鼓をたたくタイミングと音の響き、指先までもいきわたった全身の動きなど、一つ一つの演技に全神経を集中して表現する姿は、まさに圧巻でした。すべての演技を通して、「仲間と共に 力の限り バトンをつなげ 新時代へ」というスローガンのとおり、輝きを放ち、平成から令和へと伝統をつなぎ、これからの宇佐美学園の歴史を刻む運動会となりました。どの行事を通して、毎回思うことですが、宇佐美っ子の素晴らしいところは「全力でがんばれる素直さ」です。この心があるからこそ、運動会で輝く姿が披露できたのだと感じています。

2学期終了まで、あと2ヶ月。子どもたちがたくさんの輝きを放ち、終業式を迎えられるように、教職員一同、励んで参ります。



運動会 エイサー



運動会 一輪車